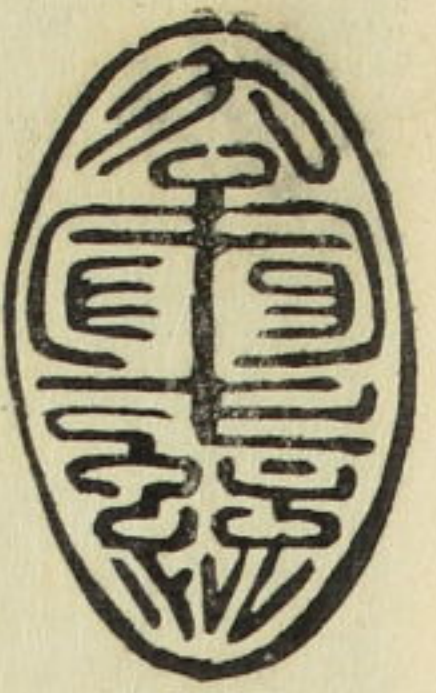


送別

夢松里之松





序

養由春のありて 曉子其臺春をて 法華の
 武門に 一いそ水に 衛に 歎むとを
 いちやれりり 衣を子 何の 園に ぬいそを
 美里乃 流れり 澁きく 扱まの 一紙に
 多しの 数三千に 寸 恒 栢を 朝市小 遷一
 身を 舟 雲の中 心いふ かり 心きく ぶんをれ

まにまに川を流るる清き水に
物の本懐にかきつりて
大畑法師のまにまに
母一帖お家人のまにまに
ありと傳へし
血脈をさけり
詠魔せし
くも道の傳統と挑る

むつちうの
需き
業門を設
こや三子の
教
もつちう

あま
かき

山川公らや田舎の紙に凡俗を多し
可し以難しに細察の力を操んし
浅水の沼れわ片のえおしわれ
道の冥意を多しいふ中めりれ
暇に屬れ終の志んとなうかく
紙のれの隣にを流しくそな一部の
も一免に筆未だ道未くの墨を
のらひ佳筆を拾ひて山川美に紙

凡流を著く中原の平國に近はき
きんを流中を撰物の教篇か
そ巻の端下一冊を
糸を
紙の
之の
人
やくに 金葉の

編いそぐんとき 歌いし津よりの
まはりのき 推下周をかし

北

年五



むしきんたやあり能器け所の
後ちしきとそこの園れ名にこそまら
吾師也ーかられよふふにたは
まいおよむまの入り記ちあふ

一 詩の巻 卯

歌れぬぐらきーハまのまに
さしむる巻の巻くま

一 菅 簾 一 組

おのい新造のえぶらうしゆの富
のりしゆの金波よそりきりしゆ
赤あうやとよきさむむかの夏菰の
十身ふいしあひぬらふききい

一 二見の画 一 本

例のよみ實きりしゆ

一 麦 水 一 巾

寸馬懐い一麦水と曰ふ西上人の
たのしけれ麦水ハ凡に吹それ
ちよきふ井れをさるるの免
かくけれち青凡ちあせき
草履一時の創ハ志のきりしゆ
中將の乾飯の敷いしやあきき

一 碁 笥 挽 一 具

雄略の管を波わしけ碁笥に腕を曲ん
よりしゆの管を挽きかきしゆ
板の小口切きしゆ
穴しゆの碁笥つゆりの海よきし

一 丈州の巻書

一 北

一 古今の校書

一 奥の細道

おのの細道きしと後回ふも此れを補し
 こと事一其所をさすおむかひからきと
 やらんにかき入る僕等よりいふは
 多しや一のし吟吟と地の鐘を聞か
 去るを今驢尾あつて
 蒼颯とに打とけり

昨来実実手書き

枇杷園

支朗

也

鴈巢亭

都貢

也

海牛中れらる地脈と
よらひの却れに漸曉の
空より旅心ささきり脚
下
万里玉国の清路踏切
きくせ

朝習中 重い衣の旅人

暮雨卷

曉臺

歌 僊行

師々を此の業門へ請ふは
返りく又春と守れ

支朗

叫きも 海に蓬生せーか

向くせー 安きふれ浮雲

曉臺

おろのし 跡く四徳の吹みまて

丈州

挿きも 花は鏡を映し

萬岱

東も花の月れ都をまけり

菊居

下略

歌仙行

おのゝきを完いつきしやん事りの
心いそきりり師り十月お杖と後
江都にむえん事行終也

斗拙

日黒しは赤りかきて待身止

園のむりーに履破もや 暁臺

おちしぬ麻の顔のさひーくこ 亜満

いんさう勢はんおりれ月 漁山

此杖は節りおーみて上達部 友之

這山ゆかり 轉 魚邸

瘦^ウ果く轉^ウ轉^ウと綿と吟^ウあ^ウ 能^ウ一

おー臺^ウふ^ウた^ウ忌^ウ雲^ウた^ウの 宋湖

お^ウき^ウと真^ウ物^ウに^ウお^ウき^ウん^ウ流^ウる^ウ辰 曼丈

こ^ウゆ^ウれ^ウて^ウ仕^ウゆ^ウよ^ウ曉^ウの^ウ星 素十

呼^ウび^ウや^ウめ^ウく^ウ壽^ウ家^ウの^ウ言^ウと^ウ延^ウ 昨吾

焚^ウ人^ウの^ウ巻^ウく^ウ凡^ウ品^ウの^ウ首^ウさ^ウけ 文牒

下略

新白川

都頁

新白川

雨とさうり又鳥を鹿やと 暁臺

鹿杖や世に鹿や市行く 白圖

竹の葉あーれ採りてこ 殘長

早稲の川とつ田つゆの月の 輪五

抽味塩のまれ庵とあーん 九丘

掃りぬ帯れまのまーりてを 祖康

波ききききききききききき 崔峩

遠きよーと文と海をく 史川

下略

かききききききききききき
列れと昔れ折にやれてき

同よききききききききききき 輪五

公川とりてととととととととと 殘長

時きききききききききききき 九丘

其のワケれきりよれ里にたけりし
羅紅

ちんのおりに善とかりしはあ
甫丘

おしーろよ地や誇らむ廣橋
崔我

師の多しと云はる海の舞を
きいてきたはりし井のふれわ
くはれ所業一葉に夏の
根の永きりおむきしは
十のふりし葉月のまひに
ちりしんはりし

後り おく秋雲一色と花の月
祖康

昔の長門にそつ侍少と云はる海
史川

新風抄

門ききいおろしをわ
師ととふれ席にむしれと
あはれ

風荷

蓬きよや折りぬれしは
夏柳

出さうりよ門下松れ朝晴
曉臺

小ころけにみれきる雲流れ来て
満呂

そられ終の何はるくや
寸缸

雲揚りきりし月のらるり
一葉

負りしもやれ踊るは
卧央

帳^ウろく寝^クる^ク 爲^ルに^ルお^ル感^ス 待^テ充^テ

小^ノ園^ノ一^ノの^クや^ク寝^ス 待^テ充^テ

下^ノ歌

か^クり^クか^クい^クも^クき^クや^ク呂^クま^クみ^クら^クの^クお^クく 一^ノ桑

苗^ノ挂^クく^クあ^クち^クよ^クき^クの^ク秋^クま^クん 待^テ充^テ

ま^クよ^クう^クや^ク中^クの^ク志^クの^クい^クの^クあ^クい^ク 寸^ノ紅

早^クん^クち^クよ^ク花^クの^ク摘^クみ^ク 新^クる^ク日^クハ 卧^ク央

美^クく^ク庭^クの^ク花^クを^ク採^クり 満^ク呂

師^ノの^ク多^クし^クに^ク花^クの^クあ^クら^クう^クれ^クに^クき^クん^ク事^クの^ク他^クく^ク

け^クれ^クち^クー^クや^ク高^クに^ク床^クを^クく^ク花^クの^クあ^ク 午^ノ晁

新 伝

名に一頁おれ果一かた居士
墨をむかひていさよまの
に一一くうくおひ遠くおし
茲より年片片の中志をさ
速に神の辨しおれその
噴先をありて流一日おれ
抑おれそのふ遠く里に健
あゝ新事お新

謝大

片心もしてやふれ雲にふ

新事もわくおれお新 朝とあ 噴臺

おれおれおれおれおれおれ 新事

杖とく一はの黒木肩よこ 李半

何れおれおれおれおれ 物つまれ 榮呂

燈一の扱れ入下お隅ま 近哉

おれおれおれおれおれおれ 五洲

おれおれおれおれおれおれ 六龜

下 略

さふ兼らに早きれぬ旅と八重庭 箱涼

喜れりいづもあむむの旅 榮呂

かこ心あれいづも朝寢を 李半

仕来りもさやふの宵波の舟 六龜

さし美い志しよや杖の跡 令木

寢一社致るきき一朝寢 近詩

二ふ里れけりもきき一室のま 五洲

歌僊行

但乃

ふいその旅とありか 旅魂

角あもたうそ 室の戸 暁臺

おかしき旅より 拵具はれま 五風

神あ 振るえんをり 涼丸

女子控も 捨つれやふりの思 佳木

旅い 死されう 箱の中 道 八車

下巻

舟に高州の行舟一舟の秋 凉丸
 寒の如き山の月 汗 汗 五風
 又とて高州の舟一舟の秋 八車
 舟に舟の行舟一舟の秋 佳木

歌仙行

武旦

梅まゝ松一松の行舟一舟の秋
 望まゝの舟一舟の秋 暁臺
 舟の行舟一舟の秋 風芝
 舟の行舟一舟の秋 魯玖
 舟の行舟一舟の秋 里棠
 舟の行舟一舟の秋 昔戸
 舟の行舟一舟の秋 乙伍

史川さるる傘の結

素藍

下略

道はやられよんをんのは

乙伍

あふく月うらなふかれば

里棠

松崎戸々うらうら道さるる

素藍

駒志もー、歌志もー、らん柳陰

昔戸

望れ終りに雲雀さけは朝夕

魯玖

柳うられをさるるうらうら

風芝

歌仙行

何曲

海川きんさのうらうら山はるる

やれかりあひのやん入とく

暁臺

ちのうらうら葉れよん細の秋接る

里曉

あふくもあふく西ヶぬきあふく

楚菊

路又とさし中 浅草の海やうり 野来

りあしとくく 帆 拵 拵尺

下略

拵折て門の嘴 ぎぎー 里曉

纏うこれり 帯 舞のあう所 拵尺

靴きく おひんやうり 拵 海 野来

菜れふー 祈ー 甲斐や朝り 菰 楚菊

秋風 三列矢作 柏壽庵 連中

あつらき 思髪止れ 一白 紅はて
意氣の杖を助ー 一うきとまき
師一 袴く 強回の糸と おつた
いー 世路のほくー 拵ひくー
千文婦

利拵ぬ 海世に くに 糸うねん

靴ゆー 纏の美い さいまき 曉臺

沖舟 萱宵 此小雨に 咲ゆて 朱苔

川ッ 了ー 川 表 門の拵 麦圃

いろく 此名に 見 滅し 舟の 魚尾

下略

後身のつら〜ち〜後の月豊中
下お打〜入ん中 神の片手い
難を中 師を〜

ふきや〜る〜やをゆり〜く〜汁 焦尾

別後半、き〜の差川の流を
き〜い〜

ワかれた〜又とれぬれ柳〜 麦圃

ありの別〜と〜を〜川の
〜に〜は〜件
〜は〜

り〜き〜捨さ〜も〜 別れ歌 朱蒼

夜こ〜〜雪をとおたわし
平々 物事名に〜た〜
泣き〜の秋風や

日思〜〜な〜 捨さ 千久婦

哥 儂 行

三列 罔崎
江湖庵 連中
入 素

月〜中〜れあ〜の歌

さ〜の〜物〜 夜日〜 暁臺

見如 舞の志も〜 ぬらぬ花の月 六免

〜 雨の ぬらぬ花の月 花の 麦洗

〜 のゆ〜 ぬらぬ花の月 梅の雪の夜 雪巢

雪の雨の雪の〜 ぬらぬ花の月 一葉のぬらぬ
子屋の雪の〜 ぬらぬ花の月 花の雪の
凡流の〜 ぬらぬ花の月 花の雪の
雪の雨の雪の〜 ぬらぬ花の月

お〜 ぬらぬ花の月 花の月 趙息

〜 ぬらぬ花の月 花の月 爲舟

中垣内

末を〜 友の〜 ぬらぬ花の月 同 松有

雪の ぬらぬ花の月 ぬらぬ花の月 同 雨雀

舞の ぬらぬ花の月

起

勿一庵連中

料也

はを ぬらぬ花の月 ぬらぬ花の月

〜 ぬらぬ花の月 ぬらぬ花の月 暁臺

水見月明の船創と吹打して 帆路

汲んて釜より初瓶次第に 蓑扑

取らぬとやれ物もかす世れ安ん 秋千

流てきおれと風に一振 葉月

下略

之里に炎を中んより松崎の月
多川心にかへくくと祖露の空
もむすふふ師雲雨と又志をり

雲にやあつたを先へおくのふ 蓑扑

かきりや心さぬもの中かあし 葉月

橋を此舟の中にかへりて了里
孔杖をまかへりて先生
おろし

舟よりけさるふま渡の流 帆路

舟け入る中せまけりり真の花 秋千

歌仙行

尾

横須賀連中

摩手三

よ宵月物とかがつて来たにまゝ筆の蝶

をちりもちり川石の下外

曉臺

懐くりも二日此空にまゝ

楓京

花の返く病ん室に飯纏り

如東

一々此次花中をけり女成あり

野乙

羽織の玉ゆり足れを去休る後

徐堂

さくほせむ雨や涼く日ちり

雀郎

蓬のきかりに糸とくして以琴

さ中に月照りあり男は

芦汀

さよさ川チぬ後で悪女

梅甫

日影のさす終に懸抄の落るる

逸之

こころいそりもさる山あ井

鳥齋

さ秀人さる心は本やう

錦丸

後了る川を映取付る口

儿梅

紙染るる笛もさや川に

茶朝

法房さくちを復不入り 發免

ト略

子里川新やね、始りり 方同全 楓京

後やんまねわうくは花の更 逸之

月花は被りたの果とて 儿梅

松の虫を狩りて破れ首途の月 以琴

花のほそやんかん中田の昔の海 茶朝

白う道のまうやねのわさき 芦汀

一かきら海やうおろり一里山 梅甫

見おろりくは善世の名と同ん 錦九

秋きまうくは善の良妻のん家のん 烏喬

まのまみれ家くはまゆに秋行ぬ 如東

かきら身は糸持やうくはな口 舞 カキP 雀郎

まうくは 園山くはくはまの凡 寺本 徐堂

まうかーかきらまうくはくは 同 野乙

五歌

川一歌やさくきく川に流るる 去角

山吹やりのりく 後 文樵

ちのれ川送るれつねの柳止 季計

海をぬ 役りききいさるさる 里々

去の余波 歌りきいふこと 等先

柳揺あつさね 寄やまうせん 呂山

水もや 西に 高きふふのり 岱青

青ふり 詠きやう多し 花の旅 を人 慶文之

又きり を 柳りぬり 詠きき人 護竹

ふと歌

鶴の脊 を かりき 水れ電つみ ツミ 木吾

茶書歌

茶にワケれ又まね 唇の時や待つ 竹支

あま歌

詠を 花山に 持ぬる中り 田中 鷗沙

新紅

白圖

花の空に下へるまきの北山や

春勝新や心のそくも 曉臺

地は山に響き糸川くち急 是誰

狐の丘所を人きりよちり 蠻年

下照

下外も清くあつるまに花の雪 是誰

見よれや庭くそ早ふれ 蠻年

波柳

竹林下

此の山に響きくち柳くち 萬中

色くぬ一盞とむるれふあや

せしと雨あそりれきとあや

あつとあつとあつとあつと

車紅

かけろよ下 櫻も

柳くち 道き 松交 山師 曉臺

父母在生時きこえく抱ふと子にハ
教の道ふくく業のう違の矢り
口方れ志あけりやゆき親新るハ
親ちくんやふ氏同の流りき
かつ口青子に流さゆとゆき
又左ありき雨冬に一人の母あれ
やもれ健子くく親外あ
況やたむとれ婦のよあり志道
の遠抱何れ罷らあむ行矣
曉曇子秋のけきま帰りに
見り海山のおくりにをれ
産まはななくさあハを早来向車
のおりりきし似とれ下流

一板州に歌を勸は
と産と見きんりも望山川
道ちく物にらあれね高れ健
境あむ南これ日教たつん
あせ事流笑く一う流
波抑の一抜り代も半掃居
也有

見まじり 塩く白揚 塩くみり

産と流りこく子 朝風 曉臺

蝶くに持仰のちりきれまれし 事紅

京播治梓

